

やっと終わった！

ここ最近、ずっと墨付け(大工仕事)してて、ハア めちゃ疲れたあ…。

ところが、ここで休まないのが、私のおかしなところで、自分自身を痛めつけるのが大好きなんだよね～。ブツ倒れるくらい頑張っても、何故か倒れない。はいっ、わかっております、そろそろ40…ツケがたまってきた頃ですよ。間違いなく、早死に確定??

近頃よく友達に、おまえは社長だからいいよなって言われるけど、会社員の方が幸せなんだよって教えてあげても、なんかイヤミにしかとってもらえなくて…

たしかに、自分で商売をやる自営は、時間の拘束もないし、自由な感じがするよね。自分で仕事や時間を決められるし、誰にも管理されず、まして、やればやるほどお金になるわけだから。そう、私が起業した理由が、まさにこれでした。

たしかに、同じ仕事で収入は何倍かにはなりません。でも、現実は厳しい。

安定して仕事を受注していくことの大変さに直面しますからね。

いままで、営業に何の苦労もなかったのは、会社の信用と、それを支えてくれる人たちのおかげだったことに改めて気付かされる。

会社にいたころは、営業してどんどん仕事をとればよかった。それなのに、自分の給料は、自分が売り上げた金額の何分の一にしかならないのを不満に思ってた。

自営業は、営業、経理、宣伝、総務、電話番、その他雑用すべてをこなさなければならない。仕事をもっと取れそうな時でも、一人では限界があるので、受注まで制限してしまう。そこで、会社にいたときのほうが、どれだけ楽だったかによやく気が付く。

また、自分の売り上げの大半が、なぜそれらの間接部門にも使われていたかを理解するようになる。

自分で経営すると、新規の客も探さなければならないし、クレーム処理もある。それが終わってから受注した仕事をこなすわけだから、勢い1日24時間フル稼働になってしまう。

でも、独立するくらいの方は、もともと仕事が好きでバリバリこなせるタイプがほとんどなので、大変な創業時期を不眠不休で乗り切り、拡大していく。すると、従業員が一人増え、二人増え、従業員の数だけ、売り上げも増えていく。

実はこれも落とし穴。その頃には、社長の仕事も爆発的に増えてしまう。なぜなら、組織が出来上がるまでは、結局社長がすべてに目を光らせておかなければ、ならないから。

しかも、このころはまだ優秀な人材がそろわないので、できない社員の分まで経営者が頑張らなきゃならない。

資金繰りも大変なことになる。数人程度の社員なら社長のポケットマネーでなんとかなるけど、数十名ともなれば、とても個人の資産でまかなえるものではない。

そのころには借り入れも増え、もう後戻りできない。さすがに神経なんかズツタズタ、でも頑張り続けるしかない。

どうしたら、楽になるのだろうか？ きっと死んだ時だな。

よしッ、死ぬまで頑張ろう！ っと、ここで最初の早死にに、つながるわけ。

ん～なるほど。

だんだんオチまでついてきて、ニガテだったはずの社長通信さえ上達するから、人間の才能ってスゴイね。

知ってる人もいると思うけど、私の父親は建築会社を経営していて、本来なら私が二代目として親方の会社を継ぐはずでした。なのに親方の会社を飛び出して、ひとりで起業したのは、前記した理由です。

でも、もし親方の会社を継いでいたら、きっと今ほど会社を大きくすることは出来なかったでしょう。たぶん守りに入って、親方の会社を潰さないように維持していくのに必死だったと思います。もちろん親方だって自分の会社を興したときには苦労したはず。

その苦労を自分で知らなかったら、経営の面白さも、会社を育てよう社員を幸せにしようという気持ちも生まれなかったはず。

自分で会社を立ち上げ、親方の会社を外から見ることができたのもよかったと思う。

子供の頃、月末になると親方が決まって手形の支払いに追われていたのを見ていたので、手形のない生活が夢でしたね。

もちろん今現在そうしてます。基本的に翌月現金払いですから、仕入先や業者に対するツケや買掛金は一切ありません。支払い総額が2000万を超える月も少なくないですが、基本はニコニコ現金払い。

だからなのか、いくら成功しても、金なんかちっともたまらない。お金に執着心がないし、そもそも、金のために商売をするという考え方が好きじゃない。

今は、いきいきと働く社員の姿と、お客様の喜んでいただいている表情をみるのが、何よりの報酬ですね。

最後の締めはカッコ良すぎたかなあ～。

でも、なんだかんだ言って奥様のバックアップなしには、何事もなしえないけどね。うちの奴に感謝！！デス。

先日のビデオ鑑賞会に出席された方々から、大変お喜びの声をいただきまして、ありがとうございました。みんなから、『今日来てよかった』『すごくいい話が聞けた』『胸に響く言葉がたくさんあった』などなど、出席者全員に満足してもらえたのが、何よりうれしかったです。

みんな素晴らしい感想文を書いてくれたんですが、その中からいくつか公表いたします。

個人が特定されないように、ワードで打ち直してありますので、ご了承下さい。

最後に、『鏡の法則』をプレゼントいたします。

これは、当初、ビデオ鑑賞会に出席した人のみにプレゼントする予定でしたが、あまりにも反響がすごいで、全員に渡すことにしました。

もちろん、ビデオ鑑賞会でもらった人には同封されてませんよ。

では、これから読む人のために、忠告しておきます。

実は私、『鏡の法則』を読んで、思いっきり泣いてしまいました。

まさかとは思いましたが、もう一度、読み返したら、また泣いちゃいました。

結局、2回泣いてるんです。ストーリーを知っても泣くんだから、もしかしたら、ただの泣き虫かも知れませんが...

そういった意味で、非常に危険な本ですから、必ず誰もいないところで、こっそり読むことを、おすすめします。まあ、泣き顔を見られても平気な人はかまいませんが。

この本の中に書いてあることは、因果応報といって、理論的、心理学的に立証されていることです。

以前、私もお話ししましたね、心にもないことであっても、感謝の言葉、愛のある言葉を、まず口に出して相手に伝える。すると不思議なことに、相手の反応により、結果自分の心が変わるということです。

これが難しいのは、嫌いな相手、憎んでいる相手に感謝の言葉、愛のある言葉を言わなければならないことです。なかなかできないです。

だからこそ、まずはセリフのように、心なんかこもってなくていいから、まずは口に出して伝えることなんです。

そして、もうひとつ自分が困っている悩みの原因は、必ず自分自身が他のことで作りだしているという事。これが『因果応報』(いんがおうほう)です。

いつもいいます。信じる信じないは自分の自由です。

平成 18 年 6 月 吉日

株式会社 杉原建築設計事務所
代表取締役 杉原 吉朝